

48. 背広衿の作図に関する研究

四天王寺女子短大 原田 靖子

1. 背広衿を作図する場合に、倒し代の数値は、衿幅、衿腰、衿明、持出し代、折線止りの数値の変化によって定るので、それら五要素を変化させて、実際に作図する場合に使用出来る倒し代の数値を求めてみた。

2. クラスで標準に近い体格の被験者を選び、白色綿芯で上身頃の実物を作成し着用実験を行なった。

衿幅、衿腰、衿明、持出し代、折線止り位置、倒し代の各数値の最少の標準型の背広衿を作成し、衿幅、衿腰、衿明、持出し代折線止りの五要素の各数値を1糎毎に変化させた場合の倒し代の数値を、着用実験によって求めた。

3. 衿幅、衿明、持出し代の増加に対する倒し代の減少の実際の数値、折線止り位置の増加に対する倒し代の減少の実際の数値が得られた。